

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の自治区に入会し、自治活動に参加し、地域の交流を深めている。	運営理念にも地域との交流を文書化し、明確にする。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼で唱和し、確認している。	朝の唱和だけでなく、理念を深めるミーティングも行っていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を毎月行っている。運営推進会議では地域の人も交えて、家族の方と共に、ホームの現状を知って頂いたり、地域の方の意見を取り入れている。	理念を(何度でも)理解して頂けるよう家族会や地域の中で”うぐいす”をアピールしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に入会し、より近隣の方に、ホームを知って頂くように自治活動に参加している。	今後も地道に少しずつ活動を続け、地域に溶け込みたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加している。(缶ひろい等) 老人会会長、自治区長、民生委員の方々に運営推進会議に参加して頂いている。	○ 地域活動に参加し、“うぐいす”をもっと地域の方に知って頂きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所主催の夏祭りに地域の方をお誘いしたり、もちつき大会等では地域の子供にも参加して頂いたりしている。		地域への貢献できることはないかを明確にし、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かし、改善点を明確にすることで現在のケアに活かせるよう模索中である。改善ポイントを中心にどのように改善すれば良いか皆で話し合い活動した。		改善点を中心にホームで話し合いながら改善に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方からの意見を取り入れ、自治会活動や徘徊ネットワークのための準備、救命講習等を受けサービス向上に活かしている。		地域の方との交流を中心にお互いが協働できるよう取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム宮若設立。市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		市町村との行き来を活発にして、サービスの向上に取り組みたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員ではないが学習会に参加している。報告はミーティングで他の職員に行っている。成年後見ブロック制度は現在該当する例がない。		青年後見制度について、職員全員で、研修し理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで振り返り、話し合い防止に努めている。	○	虐待防止マニュアルを作成し、毎月のミーティングで確認する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	新しい契約はない。解約もない。	契約を見直し、改善点があれば取り組みたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を設置している。利用者は直接小さなことでも(御飯が今日は硬い等)職員に言われるので対応し、ミーティングで話し合っている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、利用者の暮らしぶりは文書で報告している。また、ケアプランに対して、報告を行っている(一ヶ月に一度)	家族への報告は、口頭でのことも多いため、できるだけ文書や写真等も取り入れたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	一ヶ月に一度家族会を開き、意見を聞き、それを職員のミーティングで話し合いをしている。	○ 家族会の充実を図る。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	一ヶ月一度のミーティング(ほぼ全員参加)で意見・提案を聞き改善に努めている。	「思いつきノート」を含めもっと充実させたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	時間の調整のきくパートさんと契約している。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今までに離職者が出ていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	採用にあたっては年齢、性別に関係なく募集している。	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	職員ミーティングをはじめ、朝の朝礼で利用者への声かけ・トーン・言葉づかい等指導される。	毎日の仕事の終わりに「感謝」ノートにスタッフが書き入れ、共有の振り返りとしている。
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の勤務調整をしながら、研修参加ができるように環境を整えている。	研修会だけでなく、他の施設での研修も含め、職員のスキルアップを図りたい。
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	GH協議会ブロックだけでなく、GH宮若を設け交流している。GH宮若で福祉まつりにも参加した。	スタッフの相互訪問や合同勉強会を開き、サービスの質の向上を図りたい。
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	年に数回、懇親会を開き、ストレス軽減や親睦を深めている。	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	研修会参加時には、受講費や交通費を支援すると共に、勤務変更等にも対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		新しい入居者が入られる際は、会議を設けたい。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に過ごすことで喜怒哀楽を共にしている。また、利用者同士で心配しあう姿や、職員を気遣ったりされる。</p>	<p>今まで生きてきた中での話をする中で、職員が学ぶことも多く、特につけ方等を学びながら、毎日生活している。</p>
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事には、家族の方もお誘いし、家族・利用者・職員が皆で楽しんでいる。</p>	<p>家族と共に参加されることで、利用者も喜ばれているので、できるだけ多くの家族を巻き込んだサービスを行ってきたい。</p>
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>できるだけ多く接する機会が増えるよう電話したり、声かけしている。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前交流のあった地域への外出や馴染みの方との旅行等を支援している。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士で関わり合い、お互いに励ましたり、手伝ったりされている。孤立する前に職員が気分転換を図れるよう誘導したりすることもある。</p>	<p>時にはトラブルに発展することもあるので、より注意を払い、孤立しないようにスタッフが支援したい。</p>
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス継続中である。</p>	<p>時々「うぐいすだより」や、手紙等をおくり、様子を伺い、関係を続けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の話をしてできるだけ聞くよう努めている。意向の把握が困難な場合は、家族との意向を含めて、本人にとって良い方法は何かを検討している。	本人の意向が困難な方も多いため、家族の意向が中心となるが、できるだけ本人の意向を聞きだしたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの方より話をお聞きしたこと、本人の言葉をアセスメントの中に入れて書き込んでいる。	ゆっくりと時間をかけて、昔話を少しづつお聞きして、生きてきた経過を知ってほしい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のペース、どういう時に心身が不安定になるかを、ミーティングの中で話し、職員で共有している。又、毎月の記録を元に職員自身が休みの間、どの様に暮らしておられたかを把握している。	現状を総合的に把握できるよう、ミーティングの場を増やしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とは意向が把握できないことも多い。家族とは、一回/月にケアプランを見て頂き、意向をお聞きしている。職員は毎日ケアプランを見ながら記録しているので、共有し、ミーティングで再確認している。	担当者を決め、中心となって計画するが、職員が自由に書き込めるようなオープンな形式に取り組んでいきたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行うと共に、職員で話し合い計画を作っている。	(現状取り組んでいる例) 立位が取れなくなり、移乗(車いす、ベッド、トイレ)が困難な利用者様に対して、家族と話し合いボードのついたP-トイレを購入して頂き、転落防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間、ケアプランを見ながら個別の記録を行っている。		ケアプラン、記録を整理し、より良く効率的に分かりやすい記録を作りたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の病院受診時に車で送迎したりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月毎の運営推進会議で外部の方の意見を取り入れている。又、その場でホームを理解して頂けるよう活動を報告し努力に努めている。		近隣の学校にも働きかけていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な方は、訪問看護、訪問リハビリも導入し、支援している。		個別の意向を聞きながら調整を行っていききたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働まで至っていない		ケアマネジメントのオブザーバーとして、協働して頂けるよう取り組みたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院を主として、かかりつけ医に各々受診し、受診を家族と共に行っている。		提携病院との連携について、より強く、築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に受診される利用者が少ない。	○	家族と本人と相談しながら、専門医の診断や、病院と関係を築いていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護職員や訪問看護の方に、相談しながら、日常の健康管理を行っている。	○	提携病院との連携を密にしていきたい。
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は、近くの提携病院が多く(ほとんど)、職員が毎日のように顔を出しコミュニケーション、相談している。	○	より病院(医療)と連携して、受け入れ体制を充実したい。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ミーティングの度に話し合っている。	○	今後も繰り返し話し合い方針を共有化させたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に「もしも」時の連絡先等を全員で把握し、症状・状態によってその都度話し合いをしている。今後の指針について検討中。		検討内容を元に支援をより充実させたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在まだこのケースはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには留意している。個人記録もデスクの引き出しに収納する等プライバシーに留意している。	言葉づかいだけでなく、トーンにも注意するよう、職員皆で心がけている。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望、思いを聞きながら、納得できるよう時間をかけ説明を行っている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間に合わせるのではなく、個人の体調やペースに合わせて声かけしている。	個人が快適に暮らせるよう一人一人のペースを大事に支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じ馴染みの美容室のお連れしている。化粧品も馴染みの店より来て頂いている。	今後も続けたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のもの、畑で収穫した食材を職員と共に皮をむいたりして準備している。職員と一緒に一つのテーブルで食事をいただいている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できる限り希望に添ったメニュー、おやつ等を提供している。お酒の好きな方の毎日の晩酌には対応できていない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	意志表示できない方は、声かけしてトイレ誘導し、尿意のある方は、自由にして頂けている。声かけ、パット等を検討しながら昼間はトイレで行えるよう支援している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は毎日午後より入浴時間を設けている。隔日入浴を主としているが入浴予定日でなくても希望により入って頂いている。順番は毎回変えるよう対応している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由に生活して頂いているので休みたい時等は自室で休まれている。その個々に応じて本人と相談し、ベッドの位置を変える等対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域ボランティアと協働し、歌を歌ったり、みんなで一つの作品を作り上げることを支援し、楽しみ、気晴らしとなっている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イベント参加等外出する際は自由に買い物されている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望時にその各々に添って外出介助したり、ネームプレート持参して頂く等行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	映画、イベント、航空ショー、外食等家族もお誘いし参加して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使って頂いている。職員が番号を押し、話して頂くことが多い。手紙のやり取りは実施されていない。	○	年賀状にも取り組んでいきたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客は歓迎し、リビング、自室等自由に使って頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。言葉使いやトーンには注意する様、繰り返しミーティングで話し合っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できるだけかけないようにしているが、職員が手薄になる時はやむを得ずかける時がある。		かけないケアが常時できるように取り組みたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在、様子に注意を把握し、常に見守りをしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別に箸置きを使用しない等、みんなで話し合い、取り組んでいる。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	薬は職員の前で必ず飲んで頂き、確認している。常に見守りを行い、消防署から講習を受け対応を学んでいる。事故防止のためヒヤリハットを積極的に記入し、職員全員で確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習等を受講し(すべての職員)対応の訓練を学び、ミーティング等で常に話し合っている。	○	定期的に続けていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と避難訓練を実施している。	○	防災訓練を地域の方にも呼びかけ、協力・協働ができる働きかけをしたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	時々の状況に応じ、家族に説明するだけでなく、毎月の家族会で起こりえるリスクについては説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に心配りをし、変調時には、看護師に相談し、家族と連絡をとり受診する対応をとっている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ファイル、ノートがあり、いつでも見える所に置いて誰がどんな薬を飲んでいるか明確にしている。確認のため職員はサインしている。症状変化時は業務日誌で申し送りしている。		全ての薬の内容まではなかなか覚えられないとの職員の意見があった。その都度、薬のノートを見る習慣をつけれるよう取り組んでいきたい。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に繊維質のものを取り入れるよう心掛けている。水分摂取を十分行えるようトロミ等使用したり、時間をとっている。毎日、ラジオ体操も取り入れている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、晩の口腔ケアは、毎日行っている。全介助の1名だけは計4回/日のケアを行っている。毎食後の口腔ケアはできていないので、うがいを行えるよう検討中。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量は調節し、栄養補助食品を使うこともある。	○ 水分摂取量チェックの徹底
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関先の手洗い(消毒)を置き、訪問者にもお願いしている。外出より帰宅したとき、手を洗うよう職員、利用者共に心掛けている。洗面所にはチラシ等を貼っている。インフルエンザも随時予防接種中。	
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は殺菌し、食材は買い置きしない。食材はほぼ火を通して、提供している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植え、家庭的にしている。毎朝玄関を清掃し、気持ちよくお迎えできるように心掛けている。	
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、手作りの作品を飾り普通の家庭のような雰囲気を出すようにしている。トイレにもブラインドをつけ、光にも気を配っている。	
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	メインテーブルの他にソファ、ベランダにもイスを置き、どこでもくつろげるようにしている。	ほとんどの利用者の方が、メインテーブルを囲んで日中過ごされているので、家庭的な昔の茶の間のようになっている。そのことを支援するために居心地の良い椅子も購入している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人と家族で相談して、各々好みのものを持ってこられ、個性に沿った部屋にして使っている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に空気の入換えをし、できるだけ自然光や風を取り入れている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーで廊下、風呂等手すりもついている。トイレも車いすの人が使いやすいように移動式の手すりを置いている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各利用者に常に目を配り声かけを行っている。「便所」「風呂」等の表示は大きく、目線を下に示している。ご自分でする事はして頂いている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで日向ぼっこや昼食を食べたり、畑の草取り等して楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ホームの利用者の方が、日中ほとんどリビングで過ごされている。利用者同士が労り合い、心配したり、また、職員へも心配してくれたりされる姿は室ではないかと思う。それは職員がひとつとなって利用者へ接しているということが、職員・利用者共に家族になりつつあるのではないかと思う。また、利用者・職員共に入れ替わりがないことは、非常にアピールしたい点だと思う。お互いが思い合う、これこそ家族ではないかと思う。今後は他の施設とも交流を深め、より良いケアを提供できるよう取り組んでいきたい。